Tokyo Kasei University

松岡 洋子 MATSUOKA Yoko

人文学部 教育福祉学科　教授

「住み慣れた地域でその人らしく最期まで」住み切るためのケア・住まい・地域

キーワード　高齢者福祉，エイジング・イン・プレイス（地域居住）

研究内容

デンマークにおける高齢者福祉の調査（1997年）をきっかけとして，「住み慣れた地域でその人らしく最期まで」というエイジング・イン・プレイス（Ageing in Place地域居住）についてケア・住まい・地域づくりの側面から研究しています．

松岡洋子の研究に関する著作

ヨーロッパ諸国では戦後の福祉国家における制度・専門職に重点をおいたサービス提供から，地域で支え合う参加型ネットワーク社会へと大きくパラダイム転換しています．この転換は，個々人の「Well-being（幸福）」を見極めた上で，地域の多様な資源を活用していく動き（Asset-based Approach）とも連動し，地域包括ケアともシンクロナイズしています．ボランティアやインフォーマルな資源の活用が盛んになると，次の段階として，専門職とどのように協働してくかという課題が生まれ出てきます．

以上のような問題意識に基づいて，海外の現地調査結果を情報発信し，小規模多機能型居宅介護，定期巡回随時対応型訪問介護介護を中心とした訪問調査，インタビュー調査，アンケート調査等を行い，地域包括ケアの推進に必要な要素についてミクロ・メゾ・マクロの視点から提言しています．

関係論文，特許・著作物等の知財情報，連携の実績

・松岡洋子著（2001）「老人ホームを超えて」クリエイツかもがわ
・松岡洋子著（2005）「デンマークの高齢者福祉と地域居住：最期まで住み切るケア力・住宅力・地域力」新評論（居住福祉学会賞）
・松岡洋子著（2011）「エイジング・イン・プレイスと高齢者住宅：日本とデンマークの実証的国際比較研究」新評論
・松岡洋子（2014）「地域居住（Ageing in Place）と日本への視点」『社会保険旬報』2572, pp. 24-29
・松岡洋子（2015）「エイジング・イン・プレイスと住まいとケアの分離：地域包括ケアの示唆」『老年社会科学』36-4, pp.439-445
・松岡洋子（2020）「オランダの医療保険・介護保険とインフォーマル資源活用」『社会福祉研究』138, pp.86-93

社会連携・産学連携の可能性

各種社会調査，および，調査にもとづく地域づくり（地域住民の協議会形成など）支援，高齢者住宅コンセプトメイクなどで産学協働の可能性があります．